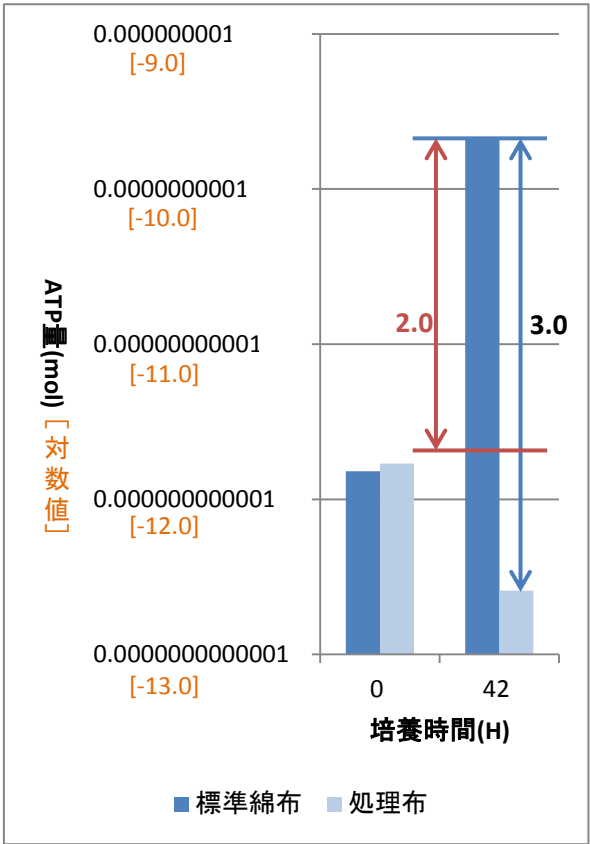


クロカビ

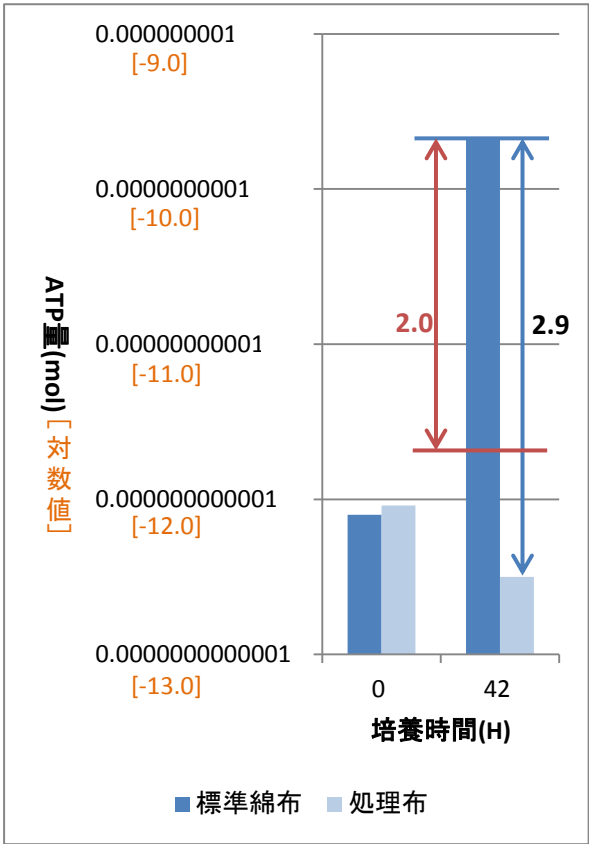
検体	ATP量の対数値	
	接種直後	42時間培養後
標準綿布	-11.82	-9.68
処理布	-11.77	-12.59



接種かびATP量: 約0.000000000015mol
未加工の標準綿布の培養後ATP量: 約0.00000000021mol
処理布の培養後ATP量: 約0.0000000000026mol
【抗かび活性値: 3.0】

白黴菌

検体	ATP量の対数値	
	接種直後	42時間培養後
標準綿布	-12.10	-9.67
処理布	-12.04	-12.50



接種かびATP量: 約0.0000000000079mol
未加工の標準綿布の培養後ATP量: 約0.00000000021mol
処理布の培養後ATP量: 約0.0000000000032mol
【抗かび活性値: 2.9】

・クロカビについて
接種かびATP量が約0.000000000015molに対し、未加工の標準綿布の培養後ATP量は約0.00000000021molと増殖している。一方、処理布の培養後ATP量は約0.0000000000026molまで減少している。

ISO 13629-1においては抗かび活性値が2.0以上で効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)
今回の処理布は抗かび活性値が3.0であるので、十分な効果があるといえる。

・白黴菌について
接種かびATP量が約0.0000000000079molに対し、未加工の標準綿布の培養後ATP量は約0.00000000021molと増殖している。一方、処理布の培養後ATP量は約0.0000000000032molまで減少している。

ISO 13629-1においては抗かび活性値が2.0以上で効果があると評価される。(左図においては赤線よりも減少していること)
今回の処理布は抗かび活性値が2.9であるので、効果があるといえる。